

タイトル

Cooking My Life

～私の空間・家族の空間～

自分の空間って何だろう…。
家族の空間って何だろう…。

空間について意識している人はあまりいないと思う。
ただ、少しだけ自分の空間や家族の空間について意識してみると、
明日からの生活感が変わるかもしれない…。

この話は、
料理が大好きな家族が自分たちにピッタリの家を探している。
その中で高校生の女の子が、沢山のことを学びながら
自分の空間・家族の空間について少しずつ学んでいく物語…。

私は16歳の高校1年生。私の家は父と母と弟と私の4人家族。
父と母は結構有名な料理人。私も弟もそんな父と母をととても尊敬している。
私たちもいつか父と母のようなカッコいい料理人になりたいと思っている。

私たちは今、自分たちに合った家を探している。
けれど、なかなか見つけることができない。私はいつも同じ夢を見る。
素敵な家でみんなが楽しそうに料理をしたりしている夢を…。
私はいつかきっと見つかると思っている。

ある日、学校の帰りに友達と寄り道していると、目の前に1件の家らしき建物が…。
私はさっきの家が気になって、家に帰った後もう一度見に行った。
すると、そこには弟が立っていた。
「何しているの？」私が尋ねると
「ん？僕、この家に住みたいなと思って。」と弟が言った。
私は弟に「中を見てみたら…？」と言われ窓から中を覗いてみると、とても驚いた。
目の前には広いキッチンが見えた。私は家の中へ入ってみたいと思いました。
私たちは早速家に帰って父と母に話してみました。
すると「明日、その家をみんなで見に行こう」と父が言ってくれた。
明日待ち遠しかった。

近所のおばさんの話によると、あの家は何年も空き家だったらしい。
そして今もあの家に住んでいる人はいないらしい。
(だから中を覗いたとき人の住んでいる雰囲気がしなかったんだ…。)

次の日、私たちはその家を見に行った。
部屋は丸い形が中心となり、その周りには個人の部屋とお風呂・トイレなどがあった。
父も母もととても喜んでくれた。私と弟はその2人を見て少しだけホッとした。
お風呂場の隣には家族みんなで使える大き目のクローゼットがあった。
お風呂やトイレは少し小さめだったけど私たちはあまり気にしなかった。
なぜなら、大好きな料理ができるキッチンが広いから。
個人の部屋も最小限のスペースで、ちゃんと4人分あるし。
いい感じの家だなあと思っていた。父も母もこの家のことを気に入ってくれた。
そして決まった。来週この家に引っ越しすることを…。
私と弟はとても嬉しかった。

そして引っ越しの日。私はその家で過ごせることを楽しみにしていた。
引っ越し終了後、お昼ご飯を父と弟が作ってくれた。
いつも以上にとても美味しく感じた…。

ご飯を食べた後、私は自分の部屋を自分風にアレンジしてみた。
水玉模様のカーテンは大きい窓にピッタリだった。私だけの空間ができた。
置いてある家具はベッドだけ。シンプルでとても小さな部屋だけど私にとって
とても居心地の良い空間となりそうな気がした。
しかも、この部屋は家族の中で1番人気のある部屋だった。
理由はこの部屋が1番キッチンに近い部屋だったから。
だから、私の部屋は最高の部屋だ。

弟は、サッカーが料理の次に大好きだからポスターやボールが沢山飾ってあった。
雨の日外で遊べないときは狭い部屋の中でリフティングしたりしている。
片付けが終わった後、「僕だけの空間ー♪」ととても嬉しそうにしていた。

この家に来てから1年が経った。
なぜか私にはこの家に来てからみんなで笑い合うことが増えた気がした。
私は今のこの家が大好き。この家に引っ越せてよかったと思っている。
キッチンのところにある大きいテーブルでは、みんなが勉強したり、雑誌を読んだり、
話し合ったりできる。私はこのテーブルがとても気に入りました。
このテーブルは私たち家族をひとつにしてくれるから…。
それから、キッチンは私にとってとても大切な自分の空間となったし、
家族の空間にもなった。

しかし・・・。
今私は家出中…。
なぜかって？弟と喧嘩したから。原因はキッチンの取り合い。

・・・「姉ちゃん、そこどいてよ！」と弟に言われた私。
けれど今、母のためにケーキを焼いている最中。今日は母の誕生日。
「嫌だよ。今ケーキ作っているんだから。」と言った。
しかし、弟は諦めずに言い返してくる。
「姉ちゃんなんかより、僕の方が料理上手いと思うよ？
ここは姉ちゃんの居場所なんかじゃないし。」

私はとても傷ついた…。とても悔しかった…。

だから今こうして家を飛び出してきた。

「私の居場所は何処…?」「私の居場所は自分の部屋だけなの…?」

私を捜しに来てくれた父にそう聞いてみた。

父はゆっくりと口を開いた。

「お前の居場所は自分で見つけるもの。いくつだって自分の居場所は
つくりだせるんだよ。みんなの居場所はお前の居場所でもあるんだよ。」

私は、父の言葉を心の中に深く刻み込んだ。

私は父に連れられて家に帰ってきた。

テーブルの上にはとても豪華な料理が沢山置いてあった。

そこには、母と弟が待っていた。

「姉ちゃんさっきはごめんね…。僕、言いすぎた。やっぱりキッチンに姉ちゃんがい
ないとなんか寂しいよ。ほんとにごめんなさい。」

弟はちゃんと謝ってくれた。

「さあーて、お腹空いたね。今夜はお母さんの誕生日パーティーと
仲直りパーティーだ。」

私たちは美味しいご飯を食べながら、みんなで笑い合っって楽しいパーティーを終えた。

その夜、私は今日1日で沢山のことを学んだ。

- ・自分の居場所は探せば何処にでもあるということ。
- ・自分の居場所は自分自身でつくりだすことができるということ。
- ・みんなの居場所は自分の居場所でもあるということ。

私は、私の空間・家族の空間を意識して過ごしてみようと思う。

自分の空間と家族の空間を大切にしながらこの家で楽しく暮らそうと思う。

きっと今より楽しい毎日が送れる気がする……。